

カレーライス 解釈

5年 高橋 友花

ぼくは、1場面最後で何があっても絶対にあやまるもんか、と心に決めている。最初は、お父さんがあやまってくれたら、謝ってもいいと思っていた。しかし、お母さんがお父さんの味方になったことが分かり、謝る気持ちが完全に無くなった。④でもお母さんはいつもお父さんのみかただと言っているが、いつもは、お母さんはお父さんの味方に「つく」のであって、今回のように味方ではなかった。お母さんがお父さんの味方になったと判断したのは⑦のお母さんの言葉である。お母さんは、ぼくが中辛のカレーをもう食べれることを知っていた。⑦の前半でお父さんが、特製カレーを食べれば、きげんも直ると言っている。これに対し、ぼくは「またカレーなの。」と抗議の声をあげている。ぼくはここまで一度もしゃべっていないが、この一言は喋っていることから、お父さんの特製カレーに対してすごく嫌だと思っていたことが分かる。そしてなにより、中辛カレーが食べられることを知っているはずのお母さんが、ぼくの「またカレーなの。」に対して「文句言わないの。」と、ぴしゃりと一言で否定されたことが本当に悔しかった。なぜなら、中辛のカレーが食べられると知っているお母さんがお父さんに中辛が食べられることを言ってくれるかもしれないという期待が裏切られたから、もう謝る気持ちが0になったのだと考える。